



国際移動に伴う階層移動に関する国際比較研究

著者	竹ノ下 弘久
発行年	2009-05-31
出版者	静岡大学
URL	http://hdl.handle.net/10297/4486

平成 21 年 5 月 31 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2006～2008

課題番号：18730321

研究課題名 (和文) 国際移動に伴う階層移動に関する国際比較研究.

研究課題名 (英文) Transnational migration and social stratification in a comparative perspective

研究代表者

竹ノ下 弘久 (TAKENOSITA HIROHISA)

静岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：10402231

研究成果の概要：

本研究では、国際移動に伴う階層移動に関する国際比較研究として、ブラジル人移民を主たる事例に、日米比較研究を行った。分析の結果、日本におけるブラジル人はアメリカにおけるブラジル人と比較して、社会経済的な上昇移動が困難な状況におかれていることが明らかになった。とりわけ、移民のホスト社会への同化・適応が、移民の所得にどのような影響を及ぼすか、確認すると、日本の方が、その効果が非常に小さいことも明らかになった。受け入れ社会における労働市場の構造が、移民の社会経済的地位達成と大きな関連があることが、比較を通じて明らかになった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,700,000	0	1,700,000
2007年度	1,100,000	0	1,100,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	180,000	3,580,000

研究分野：社会階層論、国際社会学、社会調査法

科研費の分科・細目：(分科) 社会学 (細目) 社会学

キーワード：国際移動、社会階層、ブラジル人、グローバル化、計量分析、

1. 研究開始当初の背景

グローバル化は、私たちの社会に様々な影響を及ぼしている。近年では、社会階層論の立場から、グローバル化は、階層構造にいかなる変化をもたらしているか、という観点から、研究が進められている。また、移民研究においても、グローバル化と国境を越える人の移動が、先進各国においてどのような影響を及ぼしているかという研究も盛んにおこなわれてきている。しかしながら、

日本では階層研究におけるグローバル化の影響は、主流国民を対象とする研究に限定されており、移民を対象とする研究はほとんど見られない。他方で、移民研究については、理論的な研究や、質的調査にもとづく研究は散見されるものの、大規模な量的調査データにもとづく研究は、ほとんどなされていない。影響を及ぼしているかという観点から、移民また、実証データを用いた国際比較の視点を有する研究も、ほとんど行われていない。

2. 研究の目的

本研究は、グローバル化が進化する現代社会において、国境を越える人の移動は、人々の階層移動や階層的地位の形成にいかなる影響を及ぼしているかを、計量社会学的方法論に依拠して、ブラジル人移民を例に国際比較の立場から解明することを大きな目的とする。本研究では、出身国での社会階層、日本とアメリカにおける移民政策の相違、移住プロセスと移住システム、人的資本、移住先で組み込まれる労働市場セクターを、国際移民の階層的地位の規定要因として重視し、日本とアメリカについて国際比較を行う。

3. 研究の方法

移民の階層的地位の国際比較を行う上で、国際比較の方法論について検討した。その上で、実際にアメリカと日本の大規模データを用いて分析した。

日本におけるブラジル人移民のデータについては、2005年に磐田市と国立社会保障人口問題研究所が共同で実施した調査データ、2006年に浜松市が、2007年に静岡県が行った調査データを用いた。これらの調査には、申請者はいずれも研究分担者、研究協力者の形で、調査の企画・実施に携わっており、調査が完了した後も、調査データの二次利用について、各自治体から承認が得られている。比較のための日本人のデータとしては、2005年社会階層と社会移動全国調査(SSM調査)、日本版総合社会調査(JGSS)を用いた。アメリカにおけるブラジル人移民の動向を明らかにするために、国勢調査の5%抽出サンプルデータを用いた。

量的調査の結果を補足的に理解するために、静岡県下で、日本におけるブラジル人を対象に少数のインタビュー調査も実施した。

4. 研究成果

(1) 制度編成と社会階層

階層構造・階層移動の国際比較に際しては、しばしば制度論の立場から、分析が行われている。本研究でも、制度論の立場に立ち、各国における制度編成(Institutional arrangements)の相違が、移民の階層移動にいかなる影響を及ぼしているか日米両国におけるブラジル人移民の階層移動の特徴を明らかにするために、両国における移民政策と労働市場の構造について、先行研究の検討にもとづいて、整理を行った。

アメリカでは、ブラジル人移民に対して、日本における日系人のような特別な配慮はしていない。合法的な就労ビザを取得するか、留学目的でアメリカに入学し、高等教育を終

了後、労働市場に参入して職を得る、もしくは、観光目的で来日しその後、資格外の形で就労し、非正規滞在者となるかのいずれかであろう。文化人類学的なフィールドワークにもとづく先行研究によれば、80年代のブラジルの経済危機以降にアメリカに移住したブラジル人の多くが、非正規滞在者であることを明らかにしている。アメリカと陸続きのメキシコからの移民と比較しても、移動に伴うコストは大きく、その結果、非正規滞在者であっても、人的資本が高い者が、選ばれる傾向が高いと予測できる。他方で、日本の場合は、日本国籍をもっていない外国人のうち、日系移民の2世もしくは3世であれば、就労資格に制限のないビザを発給している。そのため、アメリカにおけるブラジル人移民と比較して、移動に伴うコストも低く、ブラジルと日本の往来も自由にできる。そうした移動に伴うコストの低さは、人的資本の低い者の入国を促す結果になると予想できる。

労働市場の流動性については、日本の方がアメリカよりも非常に低い。アメリカでは、正規・非正規労働者間の垣根が低く、一般的に解雇に対する規制が弱い。そのため、労働者の人的資本の社会経済的地位達成に対する影響力が、一般的に強いことが予想できる。他方で、日本の場合は、正規労働者に対する解雇の規制が強い。近年のグローバル化に伴う雇用の流動化の進展は、正規雇用には及ばず、その代わりに、非正規雇用の増加をもたらしている。労働市場におけるインサイダーとアウトサイダーとの垣根が大きく、一度、非正規の労働市場に組み込まれると、そこから正規の労働市場に移行することが非常に困難である。そうしたことから、日本の方が、移民の社会経済的な上昇移動が困難であることが予想できる。

(2) 実証分析

分析の結果、次の諸点が明らかになった。第1に、両国の移民政策の相違は、結果的に、移民の選抜に一定の相違をもたらしていることが明らかになった。アメリカにおけるブラジル人と比較して、日本におけるブラジル人の方が、人的資本の低いことが明らかになった。とはいえ、アメリカにおけるブラジル人は、非ヒスパニック系白人と比べると、低学歴の者が多い。アメリカのブラジル人は、人的資本の高い者が日本よりも多いが、それでも、労働市場における白人との競争では、不利な状況にあることが理解できる。第2に、学歴とホスト社会への適応・同化が、ブラジル人移民の社会経済的な上昇移動にいかなる影響を及ぼすか、検討したところ、アメリカのブラジル人移民の方が、そうした人的資本や同化の効果が大きいことが明らかにな

った。その一方で、人的資本の低い者の社会的な位置を両国で比較すると、アメリカの方が、人的資本の低い者の賃金水準が非常に低いことも明らかになった。日本のブラジル人は、人的資本の低い者の賃金水準は、アメリカと比べて高い半面、そこからの経済的な上昇移動の余地が極めて乏しいことも明らかになった。

以上が、本研究課題に直接的に関連する主たる研究成果であるが、本研究を遂行するにあたって、付随的に行った研究とその成果もある。

(3) 研究方法論の検討

国際比較調査に関する計量分析の実証的な検討を行うためには、その分析方法論の検討が重要な意味をもつ。研究代表者は、本研究を遂行するために、階層移動に関する国際比較を行うための階層分類の構成に関する研究を別途行った。研究に際しては、鹿又伸夫氏（慶応義塾大学）、田辺俊介氏（東京大学）

(4) 社会関係資本の効果

移民がホスト社会において、生活を形成し、階層的に上昇移動を遂げるためには、人的資本だけでなく、社会関係資本は重要な役割を果たす。本研究では、社会関係資本のソーシャル・サポートとしての機能の検討を行った。研究に際しては、西村純子氏（明星大学）の助力を得た。比較のために、中国人を対象とする社会関係資本の効果についても検討した。

(5) 社会階層の世代的な伝達

親の階層的な地位が、世代間でどのように受け継がれていくのかをめぐっては、これまでも様々な議論がなされてきた。世代間移動において、教育は重要な役割を果たす。日系ブラジル人の親の階層的な地位と子どもとの関係をめぐっては、子どもの教育達成は、重要な論点である。階層論の視点から、子どもの教育達成についても、序論的な検討を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

竹ノ下弘久・田辺俊介・鹿又伸夫 2008 「階層移動の国際比較に向けての階層カテゴリーの構成——SSM 職業小分類の EGP 分類への変換とその方法」『人文論集』58 (2) : 17-41.

Takenoshita, H. 2007. "Transnationalism among Japanese Brazilian Migrants: Circular Migration and their Socioeconomic Position," in Curtis, B et al. (eds). *Public Sociologies: Lessons and Trans-Tasman Comparisons: TASA / SAANZ 2007 Joint Conference Proceedings*, Department of Sociology, The University of Auckland.

Takenoshita, H. 2006. "The Differential Incorporation into Japanese Labor Market: A Comparative Study of Japanese Brazilians and Professional Chinese Migrants." *Japanese Journal of Population*, 4: 56-77.

[学会発表] (計 6 件)

Takenoshita, H. 2008. "Ethnic Solidarity and Social Support among Foreign migrants in Hamamatsu." A paper presented at the Asian Studies Conference Japan, held at Rikkyo University, Tokyo, Japan, 21-22 June.

Takenoshita, H. 2008. "The Economic Incorporation of Brazilian Migrants in Comparative Perspective." Paper presented at the conference of the research committee 28 on social stratification in the International Sociological Association, in Stanford University, the United States, 6-9 August

Takenoshita, H. 2008. "The Economic Incorporation of Brazilian Migrants in Comparative Perspective." Paper presented at the conference of Japanese Association for Mathematical Sociology, held at Shibaura Institute of Technology, 30-31 August.

竹ノ下弘久 2007 「日系ブラジル人の所得決定構造——人的資本、労働市場セクター、越境移動」日本社会学会大会（関東学院大学）、横浜市、2007年11月

Takenoshita, H. 2007. "Transnationalism among Japanese Brazilian Migrants: Circular Migration and their Socioeconomic Position." A paper presented at TASA(The Australian Sociological Association) & SAANZ (Sociological Association of Aotearoa New Zealand) Joint Conference, held at The University of Auckland, 4-7 December, 2007.

Takenoshita, H. 2006. "Gender, Ethnicity and Economic Disparity: A Comparative Study of Income Earnings of Japanese-Brazilian Migrants and Mainstream Japanese." A paper presented at the Asian Studies Conference Japan, held at International Christian

University, Tokyo, Japan, on June 24th to 25th, 2006.

〔図書〕(計 1 件)

関根政美・塩原良和編 2008『多文化交差世界の市民意識と政治社会秩序形成』慶応義塾大学出版会(竹ノ下弘久第13章「『多文化社会』日本における移民の社会関係資本——滞日中国人の社会的ネットワークに注目して」279-298を執筆)

〔その他〕

竹ノ下弘久 2009「日系ブラジル人をめぐる雇用と労働——日本人との比較から」池上重弘・エウニセ石川編『静岡県外国人労働実態調査の詳細分析報告書』静岡文化芸術大学文化政策学部：42-59

竹ノ下弘久 2009「若年層の日系ブラジル人をめぐる教育機会の不平等——出身階層と高校進学結びつきに関する日本人との比較」池上重弘・エウニセ石川編『静岡県外国人労働実態調査の詳細分析報告書』静岡文化芸術大学文化政策学部：103-114

竹ノ下弘久 2008「南米系外国人の雇用と労働——人的資本、労働市場セクター、労働需要の観点から」池上重弘編『外国人市民と地域社会への参加——2006年浜松市外国人調査の詳細分析』静岡文化芸術大学文化政策学部：19-35.

竹ノ下弘久・西村純子 2008「人づきあいのあり方と精神的健康——南米出身の日系人を事例に」池上重弘編『外国人市民と地域社会への参加——2006年浜松市外国人調査の詳細分析』静岡文化芸術大学文化政策学部：71-89.

竹ノ下弘久 2007「日系ブラジル人の所得決定構造にみるジェンダー」千年よしみ編『人口減少に対応した国際人口移動政策と社会保障政策の連携に関する国際比較研究』平成18年度厚生労働科学研究費補助金研究成果報告書：423-434.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹ノ下弘久 (TAKENOSITA HIROHISA)

静岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：10402231